

こども通信

塚田こども医院

小児科・アレルギー科
漢方内科
.....
上越市栄町 2-2-25
TEL 025-544-7777(代)
025-544-7779(保育室)
FAX 025-544-8456
.....

ホームページ
www.kodomo-iin.com



秋になりました。猛暑とコロナで大変な夏が終わり、しばしの間良いお天気のもとで過ごせそうです。

スポーツ、読書など、充実した日々を送っててください。

* * *

新型コロナウイルスの第7波流行はようやく下火になってきました。第6波以降は子どもたちの



感染がぐんと増え、さらに感染力が強いために、家族中皆罹患してしまうケースも多発していました。

必要な感染対策をしても、それをすり抜け、嘲笑うように感染が広がっていく様子を現場でつぶさに見てきました。オミクロン株の感染力は、脅威というほかありません。高齢者を中心に死者がまた増えてきました。子どもや若い世代が中心に感染し、軽症化したとはいえ、罹

患者数が圧倒的に多くなったので、死者数は増加しました。やはり怖いウイルスです。

死亡率には大きな地域差があります。人口10万人あたりの死亡率は

新潟県が6・0人で、最も少ないのです。全国平均は33・8人なので、その5分の1ほどの低率。ちなみに最多の大阪府が70・6です

ので、その差は10倍以上の開きがあります。

新潟県の医療体制が、それなりにうまく機能していたとっていいようです。高齢者人口が多いにもかかわらず、全国トップの成績です。日々の県民の努力の成果だと思えます。当院もその一翼を担ったと考えます。と、頑張ってきた甲斐があります。これからも地域の子どもたちのために、引き続き尽力していこうという

感染症情報

新型コロナウイルス感染症はようやくピークアウトし、下火に向かっています。7月から始まった第7波の流行は「破壊的な」威力。子どもの感染が多かったため小児科外来は繁忙を極めました。ようやくいつもの状況に戻ってきていますが、今後またぶり返したり、次の大きな流行がやってくるかもしれません。また3年ぶりにインフルエンザ流行がおきるのではないかとという予想もあります。引き続き十分に注意しててください。

RSウイルス感染症と**ヒトメタウイルス感染症**の流行が見られています。いずれも呼吸器症状が強く、乳児では呼吸困難を起こすことがあります。園での集団発生がおきやすく、注意が必要です。

手足口病と**ヘルパンギーナ**の流行がまだ続いています。県内では長岡地域で流行が始まり、その後県内全域に広がりました。当地ではまだ「警報」が出されています。熱、口内痛(それによる摂食障害)、皮疹が主な症状です。数日対症療法を行い、経過をみています。いったん登園停止の扱いです。

感染性胃腸炎は少数の発生です。冬場に流行しやすいので、これからの季節は要注意です。

このほかでは**溶連菌感染症**、**アデノウイルス性咽頭炎**などが少しずつ発生があります。いずれも喉の痛みが特徴です。

インフルエンザは、当地ではまだ発生していないようです。

思いを新たにしています。なお、少数ではありますが、全国で子どもの死亡例が発生しています。基礎疾患のない子が過半数です。その多くはワクチン未接種でした。子どもたちへのワクチン接種も強く推奨されることになりました。重症化予防のために、子どもたちも積極的に接種を受けようとしてください。

今月の予定

院長・副院長出務

- 上越市立谷浜小学校就学前健診 11日
- 県立看護大学小児科講義 12、19日
- 上越市夜間診療所勤務 19日
- 上越有線放送「健康ライフ」18日
- FM上越「Dr. ジローのこども健康相談」
毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報(毎週)

- FM上越: 木曜午後1:35頃～
- 上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内) 医院ホームページ内

☆今年のインフルエンザ予防接種は土曜午後の専門外来のみで行います。今月15日から接種があります。どうぞご予約ください。

教訓を生かして！

何度同じことを繰り返すのでしょうか。今回は静岡県で起きました。園の送迎バスで園児（3歳の女兒）を降ろし忘れ、閉じ込められたことで熱中症で死亡しました。毎年のおきにおきている事故（事件？）です。猛暑の中のバス。冷房は止まっています、ぐんぐんと室温が高くなる中での閉じ込め。持っていた水筒は空になり、衣服もはだけていたそうです。幼い子なので、外に知らせる手立てもなく、脱出する術も知りません。次第に意識が失われ、熱中症によつて命を落としてしまいました。そんな様子を思いうかべると、胸が締め付けられます。また、なぜ防げなかつたんだらうという疑問、そして怒りも生じてきます。決して防ぐことができないことではありません。適切な対応をしていれば起きえない事故。

この時は園舎の隣に置かれたバスの中で死亡しています。

その度に社会的な関心事になり、注意を促されているわけですが、でも次の事故予防に繋がっていません。どうしてそうなるのだろうか。他で起きたことは、自分のところでも起きる可能性がある。それを予防するためには、何をどうすればいいのか。そんな視点に立つての対策がきちんと練られていないのでしょうか。残念です。

●スクールバス運転はプロに

閉じ込め事故の直接原因は運転手や同乗職員の点呼ミスです。最後に確実に降ろしていれば、このような事故は起きません。

いい加減な仕事をしていたのであれば「犯罪」です。子どもの命を預かる運転手ですから、その役割を果たさなければなりません。

報道によれば、アメリカではスクールバスの運転手は専門の資格が必要だということです。誰でも簡単に運転できる訳ではありません。私も通勤途中でよく登園バスにす

れ違いますが、中にはちょっと心配だなと思うバスがあります。運転手が高齢だったり、運転が上手ではない場面も見かけます。

運転手にプロとしての資質を持ってもらう必要があると思うのですが、いかがでしょうか。

●閉じ込め防止の仕組みを

やはりアメリカの例ですが、運転が終了し、キーを抜くと車内に警報音が鳴り出します。一番後部の装置にキーを入れるとそれが解除されます。運転手は必ず後部座席まで行かなくてはなりません。この時の往復で、残された子どもがいなかのチェックをすることになります。

レットロなローテク装置ですが、でも確実に閉じ込めを防いでくれるでしょう。金額も高くはなさそうです。

私も考えてみました。後部座席に大きなハンコを固定しておき、運転手は降車時に指定の紙にそのハンコを推して、事務所に提出する（御朱印のような感じ）。これならほとんどお金がかかりませんし、今すぐに始められます。

国は監視装置の設置を考えているようですが、高度な機器に頼らなくても、知恵を出せばより有効な手段がありそうです。

●保育士の対応をしっかりと

園舎に入っていない（登園していない）園児に対して、担任の保育士（教諭）はどうしていたらだろうか、という疑問もあります。

受け持ちの子どもが連絡もなく登園していないのであれば、保護者に連絡をとる、って当然の業務だと思うのですが。その1本の電話で、この子たちの命が助かったはずですよ。

私もわたぼうしという保育施設の責任者をしていましたが、もし利用申し込みのある園児がなかなか来所されない場合は、保護者に連絡を取ろう、保育士に指示しています。

2年前茨城県で、父親が子どものことを忘れ、車に残したまま仕事していたという事故があり、2歳の女児が亡くなっています。

こういった事故はもう最後にしてほしい。今の社会の責任だと思っしつかり対処してほしいものです。